

No. 388【2019年12月27日配信】

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産への推薦が決定(担当:児玉)

こんにちは。文化財課の児玉です。

先日、12月20日に、本市の三内丸山遺跡及び小牧野遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」の推薦書をユネスコに提出することが閣議了解されたとの公表があり、世界文化遺産への推薦が正式に決定しました。今後は、国からユネスコへ推薦書が提出され、ユネスコの諮問機関による現地調査(2020年予定)を経て、世界遺産委員会で世界文化遺産の登録審査・決定(2021年予定)を目指すことになります。

この推薦決定を受けて、本市が所管する小牧野遺跡については、縄文の学び舎・小牧野館にて、この日お披露目となった縄文人をかたどったネブタに「祝 世界遺産登録推薦決定」の文字が書き込まれ、その後、小牧野館スタッフや地元町会の方々による万歳三唱が行われ、館内は喜びに包まれました。

日本の世界遺産は、本年7月に登録された「百舌鳥・古市古墳群」(大阪)を含め23件となっており、来年の世界遺産委員会(福州市・中国)では自然遺産候補である「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」(鹿児島・沖縄)が審査される予定です。しかし、近年の審査は、年々厳しさを増しており、審査の過程でユネスコ側から指摘があった場合には、柔軟な対応が求められます。

縄文遺跡群といえば、現在、青森県立郷土館において、企画展「縄文遺跡群と県立郷土館—発掘調査の軌跡—」が開催されています。この企画展では、北海道・北東北の縄文遺跡群(17遺跡)のうち青森県の8遺跡のほか、県立郷土館がこれまでに発掘調査を実施した県内21カ所の遺跡で出土した遺物等を展示しています。

本展は、来年1月30日(木)まで開催されていますので、縄文遺跡群のユネスコへの推薦が決定したこの機会に、鑑賞してみたいはいかがでしょうか。



令和元年12月20日 縄文ネブタに
「祝 世界遺産登録推薦決定」を書き込む様子